

健康通信

市民病院より

問合先 市民病院 (☎76・4131)

COPD (肺気腫) について

呼吸器内科 部長医師

高田 和夫

今回はCOPD (慢性閉塞性肺疾患) をテーマにしてみました。最近では英語の病名が多く分かりにくいこともあります。COPDも以前は「肺気腫」とか「慢性気管支炎」と呼ばれていた病気で、こちらの方が馴染みのある方も多いと思います。

落語家の桂歌丸さんや歌手の和田アキ子さん、元プロ野球選手の故関口清治さんや俳優の故植木等さんなど著名人でも患っている方は多いです。

COPDとはどんな病気?

長期の喫煙のために肺が破壊され、年単位で肺機能が低下し呼吸不全に至る病気です。生活習慣病の一つとも言えます。全国調査では40歳以上の成人の8% (約500万人) がCOPDであるという結果が出ています。今後、喫煙人口の持続と社会の高齢化のため、ますます増加すると予想されています。

また、セキ・タン・息切れというありふれた症状から始まるのが特徴です。そのため初期には医療者



でも見逃しやすく、治療を受けずに放置していたため症状が悪化し肺の機能がとても低下した状態で診断される方もいます。

私はCOPDでしょうか?

ではどのような方がCOPDを疑えばよいのでしょうか? 医学的に認められた診断用の簡易質問票があります。その中でも、次の複数の項目に当てはまる方は一度検査を受けられることをお勧めします。

- ・ 現在または過去に喫煙者である (1日の本数×喫煙年数が500を超えると特に危険です)
- ・ 天候で悪化するセキがある
- ・ よくタンがからむ (特に日中)
- ・ 息をはく時にゼイゼイやヒューヒューということがよくある
- ・ アレルギーがない

COPDの診断にはどんな検査をしますか?

COPDの検査として、肺機能検査 (肺活量の測定など) や胸部レントゲン検査を行います。精密に行う場合は、CTスキャンや薬剤吸入後の肺機能検査も行います。肺機能検査は簡単な検査ですが診断だけでなくCOPDであった場合はその程度 (重症度) まで分かれます。

COPDはどのように治療しますか?

肺機能や症状の程度によって治療は大きく変わります。軽症の場合は禁煙のみでよいことも多いです。中等症の場合は吸入治療 (気管支拡張剤)、重症の場合はさらに在宅酸素療法や呼吸リハビリ療法なども追加していきます。



禁煙していても加齢変化として肺機能はゆっくりと低下します。そのため治療は長期間必要ですが、安定している方はお近くのかかりつけ医で治療できます。治療薬が合わなくなってきた場合や力ぜなどの後に急激に症状が悪化 (急性増悪と呼んでいます) する場合は、かかりつけ医と相談のうえ緊急対応が可能な当院へ受診して下さい。

今の医学では一度壊れてしまった肺を元に戻すことはできません。そのためCOPDではない方でも、できるだけ早く禁煙することが最も大切です。

